

## 佳作

### 書の道へ

秋田県羽後町立羽後中学校

2年 古関 陽花子

書道八段昇格。私はこの目標に向かって、今チャレンジを続けています。八段になると大人の仲間入りをしたことになり、難しい文字を書くのにも挑戦できるようになります。書道で習ったことや学んだことは、現在の自分にとってはもちろん、将来大人になってからも生かすことができると思っています。書道を続けていると、自分の文字が以前より少しずつ美しく整ってきているのを実感し、達成感を味わうことができます。長時間正座をして書かなければならないのはつらいですが、書いている最中は、自然とそのつらさも消えていきます。

私が八段昇格のために今いちばん力を入れているのは、行書です。行書は、文字の形が崩れたように変化したり点画が省略されていたりと、楷書とはだいぶ変わるため、私にはとても難しく感じます。私が行書で書くと、滑らかな理想の文字とはかけ離れ、「カクカク」してしまうので、柔らかく滑らかな文字になるように、自分の苦手である行書の練習に集中的に取り組んでいます。

習字教室や、時には自宅で母に教えてもらいながら、一画一画丁寧に書けるように必死で練習しています。習字教室の先生から、良くない点を指摘していただいたり、アドバイスを伺ったりしながら、その部分を修正し、全体のバランスが整うように考えて書くようにしています。

私がめざす八段昇格のためには「全県席書大会」に出場する必要があります。昨年度は初出場することができて非常にうれしく、はりきって臨みましたが、今年度は出場することができませんでした。とても悔しく残念な気持ちでいっぱいでした。やはり、行書で滑らかに書くことができなかったことがいちばんの原因だと痛感しましたし、文字が全体的に大きくなったり小さくなったりバランスがとれなかったことも要因だと思いました。全県席書大会に出場できなかった今回の反省点を生かせるように、練習に取り組んでいかなければならないと強く感じました。来年度は、中学校生活最後の全県大会となります。これまで以上に行書をたくさん練習して「中学最後の全県席書大会には何が何でも出場してやる」と決心しました。

八段昇格への道の途中に立ちはだかる、私にとっての高い壁。もう一つは「文字で自分らしさを表現すること」です。書道の先生から、「手本通りに書くのが全てではない。文字に自分らしさを加えることで、自分の個性や特徴を、書を

見た人に伝えることができるのだ」と教えていただきました。でも、「私らしい文字」とは、そもそも「私らしさ」とは、何なのでしょう。

私の性格を一言で表すと、「慎重」だと思います。何事も状況を見て、一つ一つ確認したり後先を考えたりしてから行動するタイプです。たとえば、誰かとグループを組む場合は、周りの状況を見て、ひとりぼっちになっている人がいないかと必ず気を配っています。ですから、「陽花子らしさ」を文字で表すためには、手本をよく観察したり研究したりして、一画一画を注意深く丁寧に書く必要があると気付きました。少しでもずれていたら何枚も何枚も根気強く書き直して、完璧な1枚の作品をめざそうと思うようになりました。

私は小学1年生の頃から書道をやっていますが、書のおかげで、さまざまな経験や知識を得ることができました。そんな経験の中で、書に取り組む際には、集中力と忍耐力が重要なのだと実感しています。文字を書く際には、一文字一文字、一画一画に対して、筆の動き、間隔、バランス……といった細かい点にまで意識をめぐらせなければなりません。また、書は上達するのに時間がかかるので、「賞が取れないから」「昇段できないから」といってすぐに諦めているようでは先に進めません。基本的な練習が続いて飽きてしまい、投げ出しそうになるときも、上達する道筋が見えず途方に暮れてしまうときも、「根気強く練習し続けていくことこそが目標への近道だ」と考えられるようになりました。

「半紙1枚書くくらい簡単なこと」と思って実際に書き始めたら、書いている途中で集中力を切らしてしまい、思うような字が書けなかったということが何度もあります。そのため、日常的に長時間の読書をするようにしています。そうすることで、集中力が高まりますし、ずっと読み続けるという忍耐力も養えます。

私は今、準七段。目標の八段まではまだ幾つかの階段を上らなければなりません。中学生のうちに八段昇格をめざしてはいますが、特に硬筆部門は毛筆よりも昇段が難しく、なかなか目標に届きません。でも、逃げ出さず、そして諦めず、ずっと書の道を一途に進んでいきたいと思っています。